



放送局の「技術」って こんな仕事

私は大阪の民間放送局に技術として大学卒業後31年勤めています。皆さんにとって放送局の「技術」の仕事ってどんな仕事が浮かぶでしょう？ テレビを見てイメージするのはカメラマン、音声さん？ 確かに「技術」の仕事の目立つ部分ではありますが、実際はもっと多岐に渡っています。テレビ番組をちょっと想像してみてください。なにがいいでしょう？ そうですね。毎朝、近畿の情報をお伝えする「おはよう朝日です!」にしましょう。

おはよう朝日を見て、まず目に入るのはスタジオの光景です。ここにいる技術はカメラマン、映像さん…ビデオエンジニア(VE)、照明さん…ライティングディレクター(LD)、音声さん…ミキサー(MIX)。このあたりの職業はイメージしやすいですね。さて、スタジオで展開している映像と音声は放送局の中でマスター(主調整室)に送られここで適宜CMと切り替えられます。このマスターではコンピューター制御で番組やCMの送出を正確な時間で管理。ここにも設備、運行を管理する「技術」がいます。このマスターを通った後、映像音声は生駒山にある送信所に送られ、電波に変換されてみなさんのお宅のテレビに映像と音声が届きます。この送信所の管理も「技術」の仕事。安定した放送をみなさんにお届けできるよう送信設備の保守メンテナンスをしています。そのほか、デジタル放送の特徴的サービスとしてデータ放送。このデータ放送の新サービスの企画制作も「技術」の仕事です。



放送局の「技術」の やりがい

私自身工学部卒業ということで理系出身。この場合、メーカーへ就職というのがもっともメジャーな道筋ですが、私の場合、放送局の「技術」の仕事のどこに魅力を感じて、メーカーを選ばなかったのか？ それは、マスコミに身を置くことで普通の生活では経験できない場面を体験することができること。そしてそれを映像、音声で表現することを通じて、視聴者に感動やメッセージを迅速に届けることができる点に魅力を感じたからと言えます。大学時代に夏の高校野球の期間中、甲子園球場から送られてくる映像を収録しながら、スコアブックとインニング毎の内容をメモするアルバイトをしていました。そのとき、自分の書いたメモがスポーツニュースの内容の手助けになる…こういう仕事を毎日したいと思ったのがきっかけでした。そして、就職後、送信所勤務、ラジオの技術、テレビの音声、映像、テレビマスターなど多くの職場を経験しましたが、中でも、ラジオ、テレビのクラシック音楽番組の担当として、自分の好きなサウンドを組み上げて視聴者に届けることができたこと、そしてその技術を評価する日本プロ音楽録音賞を3度も受賞できた点は強く印象に残っています。ただ、放送局の「技術」のやりがいは安定した放送を視聴者に届けること、データ放送を通じて新しいサービスを実現することなど多岐にわたり、人それぞれ異なる点も放送局の「技術」という仕事の魅力と言えます。



就職するために 進学する学部、学科等について

理系であれば学部、学科は特に問いませんが、工学部通信工学、電気工学、電子工学、情報通信などの学科の大学卒あるいは大学院修士課程を修了している人が多い状況です。また、配属される職場によって必要となる資格として第一級陸上無線技術士という資格があります。これを就活時に取得していると若干有利となります。最近、高画質な「スーパーハイビジョン」や番組内容と連動したSNSをスマートフォンで楽しみながらテレビを見ることができる「スマートテレビ」「ハイブリッドキャスト」などの言葉を皆さんも一度は聞いたことがあると思います。これらの新技術もテレビをきっと楽しくして

くれるはず。ということで、これからの放送局の「技術」には電気系の知識に止まらず、インターネット関連の通信技術の知識、そして魅力ある新サービスを提供する柔軟な発想が求められることになります。

インターネット関連の
通信技術の知識

柔軟な発想



いろいろなことに興味を持つ

技術といえば理系ということになるのですが、実際の放送局の「技術」に求められることは、その分野によって様々。制作技術の場合、音楽、お芝居、落語、野球、サッカー、ゴルフ…など多種多様な知識を持って、それを映像表現化する役割。データ放送を通じて新サービスを提供というと、これはアイデア次第。とにかく、どの部署に配属されても、理系的な発想だけではなく、いろいろなことに興味を持って、趣味や遊び心を伸ばすことが、魅力ある放送に繋がります。



趣味や遊び心を
伸ばそう!

